

## 深澤 敦先生の定年退職記念最終講義にあたって

産業社会学部長 佐藤 春吉

今日は学部で教育・研究などで重要なお仕事をしてくださった先生の、退職年度の最後の授業です。退職記念講義ということで、いわゆる「最終講義」を行っていただきます。そういうことで、本日は、特別な意味を込めて、先生のこれまでのお仕事、研究・教育活動全般について皆さんに伝えたいことをお話していただきます。先生の今日の講義で語られること、先生の長年のお仕事を皆さんが引き継ぐべく、先生が伝える思いを受け止めて下さい。そのような記念の意味で今日の先生の講義をしっかりと聴いていただきたいと思います。

先生は1946年にお生まれになり、1971年に早稲田大学文学部フランス文学科を卒業され、その後、慶応義塾大学大学院経済学研究科に進まれ、修士課程を1977年に修了され、博士課程に進まれて単位取得の後、フランスに渡られ、パリ第一大学にお進みになりました。1993年、パリ第一大学第三課程で博士号を取得され、日本に戻ってこられて1996年に立命館大学産業社会学部に赴任されました。10年に渡ってフランスで学ばれ、研究の深まり、厚みを持っておられる先生です。フランスに長くいらっしゃいましたのでフランス語もご堪能で、ネイティブ同様の会話能力をお持ちです。先生は国際的な視野が広く、ヨーロッパとりわけフランスの状況について深い造詣をお持ちです。学部では、役職等、いろいろなさいましたが、国際インスティテュート関係の委員・主事、産業社会学部での調査委員会（教育の状況や今後のあり方について検討する委員会）の委員をされています。また、国際担当主事、学部の国際化を進める責任者をお務めになられました。学会活動でも社会政策学会誌の編集委員をされ、社会政策学会誌編集副委員長をお務めです。このように先生は、学会活動でもご活躍をされています。研究内容については専門ではないので立ち入ったことをご紹介できる用意はございませんが、フランスの社会政策史、フランスの福祉国家の歴史と現状、フランスのジェンダーにかかわる諸問題についての歴史、国際社会政策、ILOの政策に関する歴史研究をご専門として継続的に研究を続けてこられました。先生の講義科目は「国際社会政策論」ですが、先生は、先見の明をもって、全国的にも先駆的でユニークなこの科目を産社のカリキュラムに位置づけるとともに、専門的な研究テーマとして深め、体系的な内容を持つ講義に精緻化して発展させてこられました。まさに先生の研究の成果を生かした豊富な内容の講義となっています。先生は、政策論やその歴史というある意味では現実的で実践的な問題を主題として研究してこられました。そうした問題をとらえる際に必要となる経済学や社会学、政治学等の思想的理論的な面についても深い関心と豊かな知見をもってそのご研究を進められました。先生は、そうした多面的な

関心から堅実で多彩な研究業績を積み重ねてきておられます。

私も個人的にはお世話になり、先生からいろいろとご教授いただきました。先生は正義感が強い方だと思っています。そこから私も先生の姿勢に学ばせていただきました。96年から赴任以来、先生には産業社会学部の国際協力の政策やカリキュラムを支える仕事をずっとやっていただきまして、国際インスティテュートができたのも先生のお力であると思っています。学部長として個人としても先生のご活躍と、これまでのお仕事に深く敬意を表し、感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。それでは先生の講義に入らせていただきたいと思います。簡単ではございますが、ご挨拶に代えさせていただきます。